

# 水探査に本格参入

## いちごH D 独自システム提案

【仙台】いちごホールディングス（仙台市青葉区、宮下雅光社長、022・268・6711）は、水探査事業に本格的に乗り出す。水脈の位置や規模を高精度に把握する、独自のシステムを開発した。米国や東南アジアで事業を進める。水不足に悩む地域の行政に対して、井戸掘りに最適な位置を調べたり、水抜きをして土砂災害などを予防したりといった提案を行う。2016年度の同売上高は約5000万円。本格展開により、21年度には約8億7000万円規模に引き上げる。

いちごホールディングスを課金したり、顧客がグスは自社開発のピンポイント地下水探査システム「アクアビジュアライザー」の検査機器などをパッケージ化。海外の顧客などにリースしてレンタル料



地面に電極を刺し、自社開発の「アクアビジュアライザー」で水を探査する

社、アクアサーチ（カリフォルニア州）の活動を17年度から再開し、米の事業主体とする。アクアビジュアライザーは、地面に電極を刺してデータを収集する。電気探査に加え、特定の周波数を利

用することで、高精度の地下水探査を可能にする。14年に特許を取得したほか、米や中国などでも国際特許を申請中だ。いちごH D は、ピザ宅配の全国チェーン「ナポリの窯」を運営するストロベリーコーンズ（仙台市青葉区）の親会社。